

## 第3回新しい公共島根県運営委員会

日時：平成23年10月20日  
15:00~17:00  
場所：県庁6階講堂

### ■開会

#### ■委員長挨拶

- ・本日は、7月に開催した第2回委員会で議論をした、成果目標、事業計画および予算について議論を取りまとめていきたい。
- ・前回の委員会では、成果目標の設定について、広く「目指すべき社会」、「将来展望」というような1つの重要な論点についての議論があったところ。一方で事業を具体的に進めていく上で、ある程度現実的な対応も必要。本日の議論の取りまとめにあたっては、この両方の点を配慮していただきたい。
- ・委員の皆様のご意見をお願いしたい。

#### ■協議事項について

- ・事務局より説明
- ・委員長より「資金調達に関する研究会」の会長に、毎熊委員を指名。
- ・内容について了承

#### ■報告事項について

- ・事務局より説明

### ○質疑応答

#### <主なご意見等>

(資金調達に関する事業について)

- ・(検討概要1の(1)について)「NPOと金融機関の連絡出合いの場づくり事業」に二つの例、①NPOと金融機関が一同に会して意見交換・お見合いをすること、②NPOを対象とした研修という2点があるが、その他に、金融機関にNPOの実態等を伝えることをという3点目を加えたい。
- ・(「資金調達に関する事業」という)事業名について、「資金調達」という言葉を皆さんがどう感じられるのかと。資金調達というと、「公益事業で行うものとして私達がどこから持ってくるもの?」「資金調達に関する研究会が新しい公共という考え方や社会貢献基金を広報する?」

県民や企業の助けを得ながら公益活動を行っていくんだという意味を含めた表現がよいと思う。ここですぐに決めることはできないと思うので、変更ができるということにして欲しい。

- ・資金調達といっても、金融業をやっているわけではなく、社会貢献に関わる資金調達ですから、表現については相談して欲しい。

(成果目標について)

- ・先程のいきいき活動促進委員会の議論と関わるが、成果目標の「成果」をどうとらえるかということ。新しい公共支援事業で定める目標、そしていきいき活動促進基本方針等で定めるべき目標は異なるものと認識している。大切なのは、島根全体の体系図を描いた上でそのために何が必要かを議論していくことだと思う。事務局の説明も、それをきちんと認識しながら今回の国事業の成果目標を定めていくというスタンスでどうか、という提案だったと思うのでこれには合意したい。しかし、(国事業の成果目標の中の)6と7は設置したら終わりということであり、どうかという気もするところ。
- ・(新しい公共支援事業の)成果目標は可能な限り数値を用いて設定するものとするところがあるので、このような具体的な項目でやむを得ないと思う。この中で気になる点が二点、①ホームページ閲覧数が減っているのが現状でありながら目標は10%増となっており、今後どのような具体策があるのか、②新規認定NPO法人数5という目標と、社会貢献基金への寄附件数の増加割合20%という目標、両方の達成について大丈夫か。
- ・私ども色々な寄附活動やっている。東日本大震災の影響もあり、そちらのほうに資金が集まっているという事情がある。そういう状況の中で20%というのはかなり高いハードルであるということをもとに進めてよいかということ。非常に厳しい目標であると思う。目標を10%にするということもあるか。
- ・私も20%という目標は少し高いんじゃないかと思っている。東日本大震災震災によりまして、様々な要望が入ってきている状態。その上に社会貢献基金をとというのは非常に厳しいのではないかと思う。20%は甘い割合設定ではないか。
- ・厳しい状況の中であえて厳しい高めの数字を設定しなくても良いのではないか。
- ・達成するためにはさまざまな団体の協力をいただきながら進める必要がある。
- ・事務局で「やってみよう」という考えがあるようなので、この数字で進めてはどうかと思う。

(モデル事業の予算枠について)

- ・モデル事業は2年間という限られた期間の中でマルチステークホルダープロセスを設置し、他のモデルとなるような事業となり、そして全県に

その効果を波及させることが求められると思う。そのためにしっかりと事業を支援していくこと、ある程度の期間が必要。

- ・モデル事業の実施目的がマルチステークホルダープロセスの設置ということであれば、別のネットワークづくり支援事業もある。
- ・H24 単年度のモデル事業の募集のために、予算枠を増やす必要はないのではないかと思う。

(モデル事業について)

- ・モデル事業について、先ほど現在の進捗状況を報告いただいたが、非常に長丁場の事業でもあり、また予算的にも大きな金額があたっている。事業を進められる上での課題を知ったり、費用対効果という観点からの評価や様々な支援・アドバイスができる機会があると良い。
- ・事業報告会（3/23）などで、各事業の活動状況を相互に知ること自体が刺激になる。

■ 閉会